

2-2-1 事業区域の現況植生 — 事業対象区域の植生の概況 —

■ 概要

神於山一帯では、伐採、耕作などの人との関わりを受けながら多様な植生環境が維持されてきた。このため、二次林や二次的草地を主体とする植生環境からなっており、一帯に生育・生息する動植物は里山にごく普通にみられるものが多い。一方、神於山に隣接する意賀美神社の境内林は常緑広葉樹林で、大阪府の特定植物群落や市指定の天然記念物に指定されている。

神於山東側の山直神社の社叢林も市指定の天然記念物に指定された常緑広葉樹林であり、自然性の高い樹林が神於山周辺の社寺でわずかながらに残存している。また、神於山一帯には、大阪府レッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類に分類されている希少なスズサイコや要注目種とされているカギカズラなどの植物が生育している。

神於山一帯に生育する植物は、過去の調査では、山地性の植物を中心として600種にもものぼる。神於山は、これらの植生環境を「ねぐら」や「えさ場」とする動物の生息環境を十分に備えている。

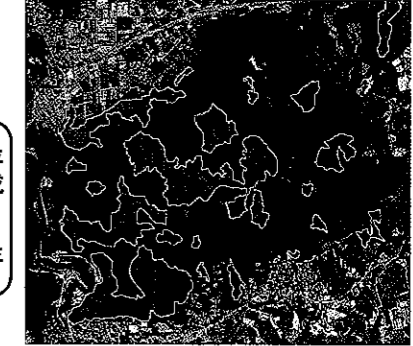
哺乳類ではモグラ、ネズミ類が、両生類ではアカガエルやタゴガエルが見られる。鳥類ではオオルリやカワセミ、キセキレイを始め71種が確認されている。また、身近に見られる昆虫も多く確認できるなど、神於山にはこれらの動植物が生育、生息できる環境が維持されているといえる。

また、自然再生区域（約180ha）に分布している竹林は、平成5年時では約47.2haで、神於山山頂付近をはじめ、山裾部の斜面地や谷部を中心に比較的まとまった面積で斑紋状にみられた。平成15年時には約59.3haと、平成5年時に比べ、約12ha拡大しており、竹林の生長・繁茂力の強さが伺える。

【竹林の変遷】



昭和36年

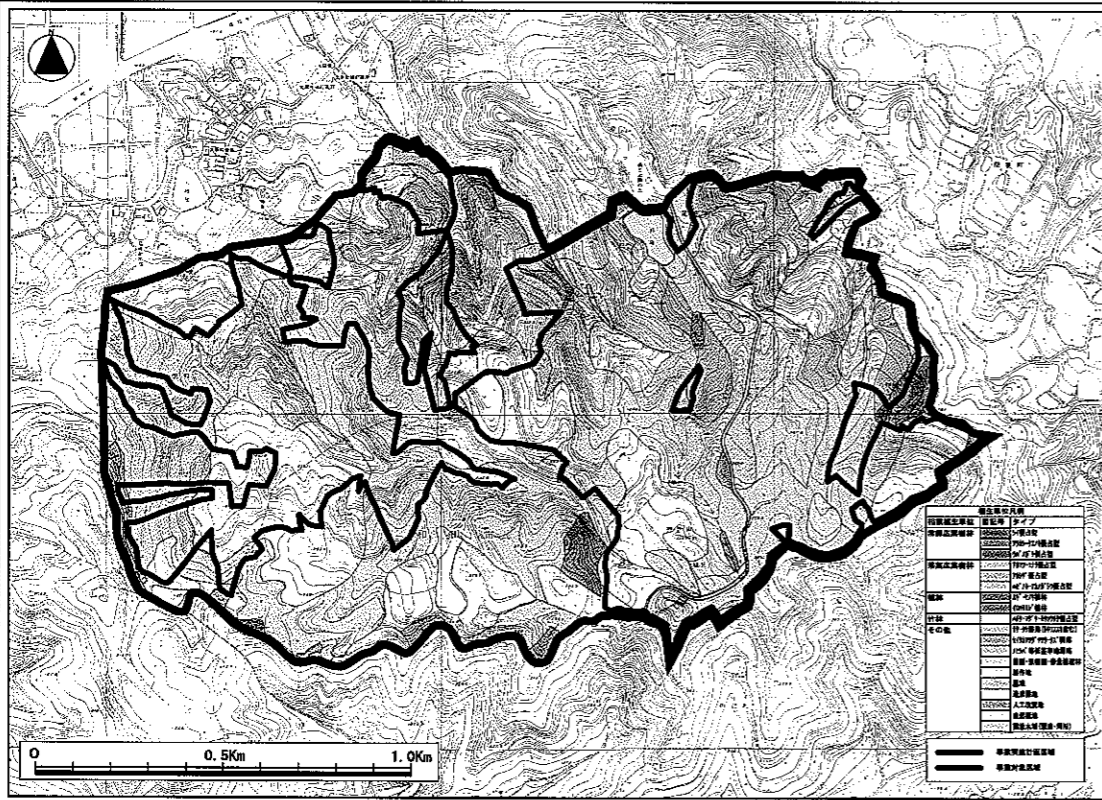


平成15年

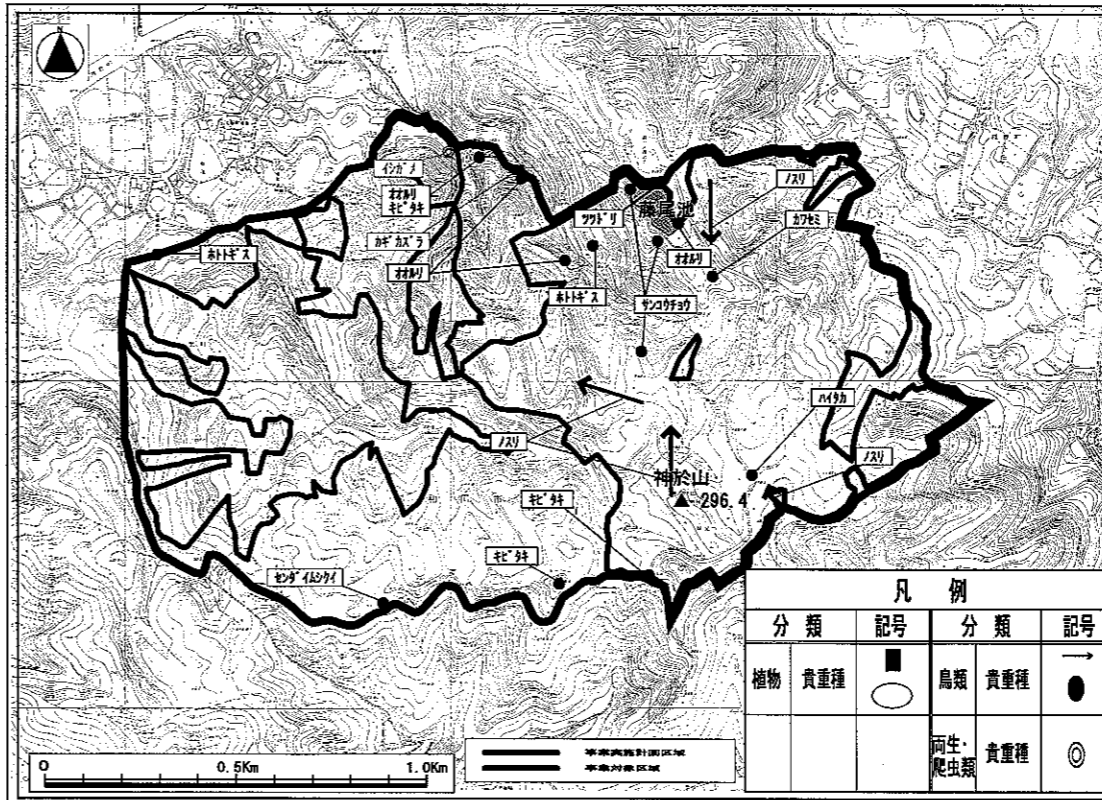
僅かに分布している竹林は、当時は竹林として管理されていたと推察される。  
また、山全体において果樹園あるいは耕作地が広くみられる。

神於山全域で竹林が広く分布していることがわかる。特に集落と繋がりのある山裾付近の分布拡大が著しい。

【現存植生図】



【希少種確認位置図】



項目	特異事象	項目	特異事象
植物	スズサイコ (絶Ⅱ)	鳥類	アオゲラ (準)
	ヤマカシユウ (準)		センダイムシクイ (準)
	カギカズラ (要)		セッカ (準)
鳥類	コチドリ (絶Ⅱ)	キビタキ (準)	
	イカルチドリ (絶Ⅱ)	オオルリ (準)	
	チョウゲンボウ (準)	サンコウチョウ (準)	
	イソシギ (準)	両生・爬虫類	ヒバカリ (情)
	ツツドリ (準)		カジガガエル (要)
	ホトトギス (準)		インガメ (要)
	フクロウ (準)	昆虫類	アオダイショウ (要)
カワセミ (準)	ヒナカマキリ (準)		
ハイタカ (要)	ヒメヤママユ (準)		
ノスリ (要)			

※大阪府レッドデータブックの選定基準を( )内に示す。  
※事業対象区域内において、過去に確認された種は、左図(希少種確認位置図)の凡例に従って表示した。

絶Ⅰ：絶滅危惧Ⅰ類  
絶Ⅱ：絶滅危惧Ⅱ類  
準：準絶滅危惧  
情：情報不足  
要：要注目

凡例

分類	記号	分類	記号
植物 貴重種	■	鳥類 貴重種	●
	○	両生・爬虫類 貴重種	◎

2-2-2 事業区域の現況植生 — 森林荒廃状況 —

■ 概要

社会生活の変化に伴い、人の関与が減り、放置された土地が増えたことにより、神於山では森林植生の荒廃がみられる。特にタケの分布拡大は顕著である。放置された環境では、時間の経過とともにタケが優占する。森林荒廃の初期の段階では、雑木林にタケが侵入している環境となり、中期になると竹林となり、さらには竹林が過密化している環境へと変化していく（右図参照）。山頂付近まで果樹栽培が行われていたにも拘わらず、里道（アクセス路）が少ない神於山では、谷や尾根の入り組んだ山間部まで、人の手が入りにくかったことも相まって竹林の分布拡大が加速している。

神於山の森林を整備タイプ別にみると、①タケが優占する地域、②クズやササに被われたヤブ状地、③常緑・落葉広葉樹が密生する区域、④比較的良好な広葉樹林など、⑤その他の森林（管理された竹林）に分けられる。

【竹林の侵入・拡大プロセス】



①雑木林にタケが侵入した環境  
隣接する竹林から、雑木林へタケの根が侵入した結果、タケと混交した環境である。

初期



②竹林が優占した環境  
雑木林においてタケが優占しはじめて、竹林となった環境である。

中期



③竹林が過密化した環境  
林内では枯竹・倒竹もみられる密生した環境で、生物多様性・景観共に改善すべき環境である。

後期

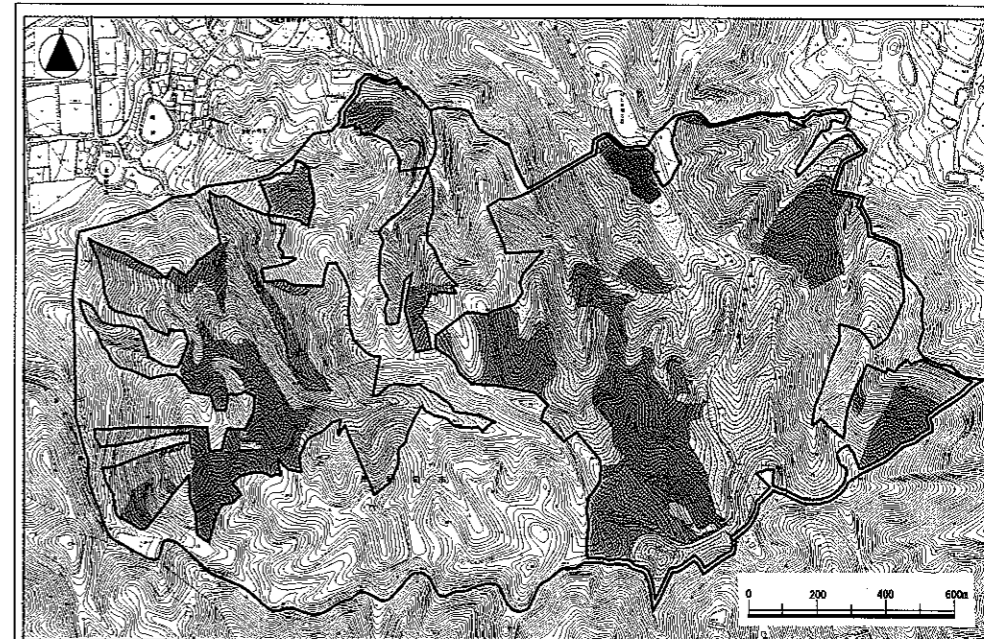
■ 解説

【森林の現況】

現況写真	植生概況	課題
	① タケが優占する区域 事業実施計画区域内における整備面積：約7ha 調査区域の尾根から斜面地、さらには谷底までの広い区域に分布する。マダケ、ハチク、モウソウチク等が密生する単層構造を呈し、かつ、単位面積当たりの立竹密度も高く、林内は閉鎖型となっている。このため、林内は非常に薄暗く、乾燥した状態であり下層植生が少ない。	・隣接する樹林への侵入による竹林の拡大 ・竹林の過密化の影響で日照不足による生物多様性の低下
	② クズやササに被われたヤブ状地 事業実施計画区域内における整備面積：約3ha 調査区域の東側の区域に多く分布する。アカマツの枯損箇所やミカン園の跡地等のヤブ化した区域で、クズ、ササ類が繁茂し、灌木類が一部混じっている。	・日照不足による生物多様性の低下 ・クズの一面被覆による自然景観の悪化
	③ 常緑・落葉広葉樹が密生する区域 事業実施計画区域内における整備面積：約18ha 高層木のコナラ、クヌギ林やスギ・ヒノキの植林地では竹類の侵入が始まっており、立木密度が高く、ネズミモチやハゼノキ等の低木が多く、後継樹がほとんど見られない。	・日照不足による生物多様性の低下 ・タケの一部侵入による竹林拡大への将来的な懸念
	④ 比較的良好な広葉樹林など 事業実施計画区域内における整備面積：約7ha 多様な樹種が混交する比較的良好な森林であるが、一部無立木地や竹の侵入の始まっている箇所もある。	・ツルや灌木の侵入による林内照度低下

※) ⑤その他の森林（管理可能な竹林）の事業実施計画区域内における整備面積：約1ha 広場、開放水域など：約1ha

【森林の現況図】



凡例

	①タケが優占する区域
	②クズやササに被われたヤブ状地
	③常緑・落葉広葉樹が密生する区域
	④比較的良好な広葉樹林など
	⑤その他の森林（管理可能な竹林）
	開放水域
	広場
	事業実施計画区域
	事業対象区域